

追悼 三上先生とともにした落書・形見文字（歌）調査

野口 一雄

『山形県 地域史研究』50号（令 8.2）に載せた「若松寺奉納の『納札』と形見歌」の末尾に、付記として次の文を記した。

令和7年2月初旬、第54回県地域史研究協議会総会・研究大会（天童大会）、第1回実行委員会にて、講演は国立歴史民俗博物館三上喜孝教授に、演題は「（仮題）『形見歌』にみる庶民信仰の広がり」と提案し、了承を得た。平成19年（2007）の、天童市若松寺観音堂の墨書調査が、本格的な「形見歌」調査の始まりであり（と私は認識していた）、天童大会にふさわしい講演内容だったからである。令和7年3月初旬、山形市で具体的な打ち合わせをする予定であった。が、来県出来ないとの連絡を受けた。三上先生がこの頃から体調を崩していたことを、後日知った。講演は断念せざるを得なかった。私の「形見歌」に関する発表は、三上先生を中心に関係者の論考を引用し、紹介したものである。いつの日にか、三上先生による講演の機会を持ちたいと考えている。

会誌「村山民俗」に、いくつかの「かたみ歌」関連の調査報告記事が載っている。

それらの中から、2か所の、調査の思い出を紹介したい。

2011年（平成23）7月31日（日）、飯豊町中村観音堂（天養寺）と川西町上小松大光院の調査を行った。参加者は、三上、加藤（和）、市村、野口の4人であった。中村観音堂調査結果は、三上「飯豊町・天養寺観音堂の落書きが語るもの」（『歴史と考古』（第9号／平成23年度 いいで歴史考古の会）に、①「天分（文）十八口・慶長廿年、村名判読できず」②「元和六年、下長井」③「年号なし、萩生村」銘の3枚を紹介している。天養寺観音堂は、2022年（令和4）8月の豪雨で大破した。元は萩生恩徳寺管理だったという。

大光院の墨書調査では、めぼしい発見はなかった。

白鷹町深山観音堂調査は2012年（平成24）8月18日、総勢7名の参加となった。別当最林寺の協力を得、「形見」の文字が刻まれている境内二基の碑を確認したあと、鈴木聖雄さん持参の発電機で観音堂内の調査を進めた。「慶長年、長門国」からの参詣者が記した形見の文字の発見があった。

三上喜孝先生と歩いた上宝沢王子権現堂

市村 幸夫